

金沢市ごみ処理基本計画（第6期）の実績等について

1. 主な施策の実施状況

基本方針1 市民・事業者との協働による環境負荷の低減

市民・事業者が積極的にごみの減量化に取り組み、環境負荷の低減やごみ処理費用の削減を図るための施策を計画的に推進する。

施策① 食品ロスの削減に向けた取り組みの推進

- ・令和3年2月に金沢市食品ロス削減推進計画を策定
- ・フードドライブ受付窓口 R2: 7箇所 → R4: 21箇所
- ・いいね・食べきり推進店 R2: 147店舗 → R4: 169店舗

施策② プラスチック資源循環の推進

- ・製品プラスチックの試験収集の実施 2地区 約5,400世帯を対象に7回 (R4)
- ・環境にやさしい買い物推進店 R2: 418店舗 → R4: 468店舗
- ・環境にやさしい買い物キャンペーンの実施 8回 (R2~R4)

施策③ 生ごみ・古紙の減量化・資源化の推進

- ・家庭系電気式生ごみ処理機購入費への助成 558件 (R2~R4)
- ・ダンボールコンポスト研修会の開催 64回 (R2~R4)
- ・古紙集団回収登録団体への支援 R2: 奨励金を4円/kg → 6円/kgに拡充
- ・令和2年度に古紙集団回収業者への助成制度を創設

施策④ 市民・事業者に対する意識啓発活動の推進

- ・ごみ減量化・資源化啓発動画の配信 15件 (R2~R4)
- ・TwitterやInstagramなどSNSを活用した情報発信 337件 (R3~R4)
- ・令和3年度に金沢市LINE公式アカウント「ごみ出しサポート」を開始
登録アカウント数: 204,935 (R4)
- ・かなざわエコフェスタの開催 (R4) ※R2~R3はコロナ禍で中止
- ・令和3年度に金沢ビジネスエコアクション賞を創設20事業者表彰 (R3~R4)

基本方針2 事業系ごみの減量化・資源化の推進

生ごみ減量化、古紙資源化、事業者への情報提供と指導の強化により、事業系ごみの減量化及び資源化を推進する。

施策⑤ 生ごみ減量化の推進

- ・令和2年度に事業用生ごみ処理機購入費への助成制度を創設 2件 (R2~R4)

施策⑥ 古紙資源化の徹底

- ・令和3年度に古紙資源化促進協議会を発足し業界団体と協議 5回 (R3~R4)
- ・令和4年度に事業系古紙保管場所整備費への助成制度を創設 1件 (R4)
- ・令和4年度に事業系機密文書資源化処理費への助成制度を創設 4件 (R4)

施策⑦ 事業者への的確な情報提供と指導の強化

- ・各種団体や事業者への訪問啓発活動 480回 (R2~R4)
- ・ごみ減量化アドバイザーを活用した事業者への助言 15件 (R2~R4)
- ・大規模事業所等への立入指導 188事業所 (R2~R4)

基本方針3 適正で効率的なごみ処理体制の再構築

ごみの発生量や性状に合わせた適正で効率的な収集・運搬・処理体制の再構築を図り、将来を見据えたごみ処理体制を整備する。

施策⑧ 将来を見据えた収集・処理体制と施設整備の推進

- ・令和3年度にLINEを活用したAI自動応答システムでのごみの分別問い合わせや粗大ごみの申込・支払い対応を開始
【分別問い合わせ数】 67,522件 (R3~R4)
【粗大ごみ申込数】 15,458件 (R3~R4)
- ・要援護者へのごみ出しサポート R2: 164件 → R4: 292件
- ・令和2年度に戸室新保埋立場（第4期）を開設

施策⑨ 不法投棄防止対策・ルール違反ごみ対策の強化

- ・「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」等での街頭キャンペーンや街宣パトロールなどの実施 (R2~R4)
- ・不法投棄防止看板の設置 215枚 (R2~R4)
- ・不法投棄物の回収 R2: 11.3t → R4: 4.0t
- ・ごみ出しルール周知のための説明会の実施 106回 (R2~R4)
- ・ごみステーションの早朝巡回指導 177回 (R2~R4)

施策⑩ 災害時のごみ処理体制の強化

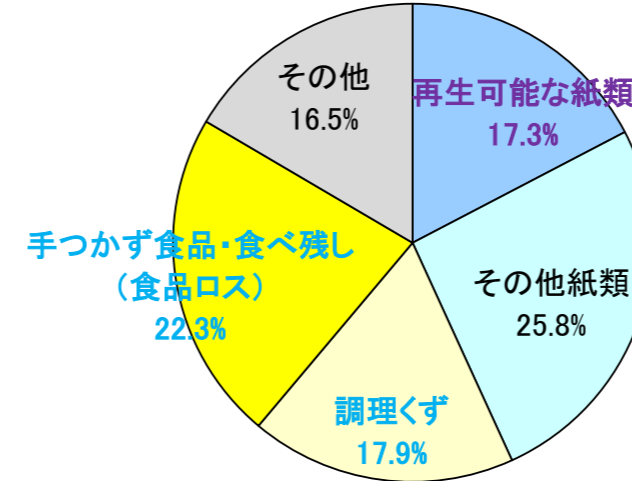
- ・令和4年度に災害廃棄物仮置場設置訓練を実施

(1)ごみ排出量

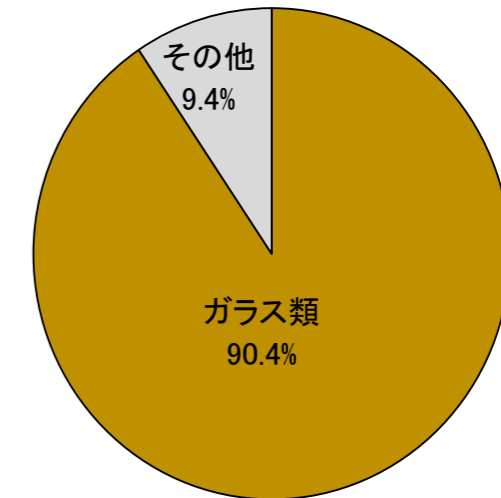
	H30年度 (基準年度)	R4年度		R6年度 (計画目標)
		実績値	対計画値比 (参考)計画値	
ごみ総排出量	157,562t	146,993t	▲ 1.3%	148,882t
家庭系	88,741t	86,253t	▲ 0.6%	86,803t
事業系	68,821t	60,740t	▲ 2.2%	62,079t
燃やすごみ量	120,541t	112,184t	1.1%	110,961t
家庭系	69,251t	68,357t	2.1%	66,950t
事業系	51,290t	43,827t	▲ 0.4%	44,011t
事業系ごみ量	68,821t	60,740t	▲ 2.2%	58,000t

※ 計画値は第6期計画における予測値

(事業系ごみ)
・燃やすごみ



・埋立ごみ



(注) 数字の単位未満を端数処理しているため、各項目の値の合計値が100%にならない場合がある。

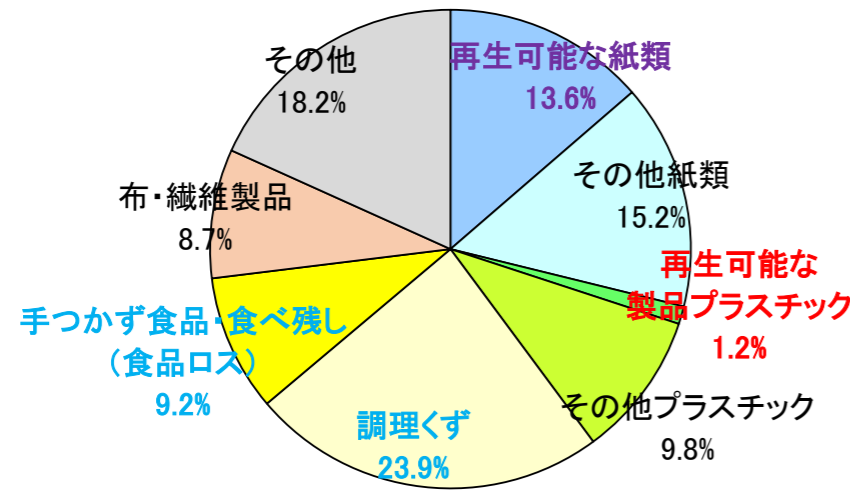
(2)家庭系資源回収量

	H30年度 (基準年度)	R4年度	
		実績値	対計画値比 (参考)計画値
金属類	2,085t	2,470t	20.0%
あき缶	817t	783t	3.0%
あきびん	2,063t	2,043t	1.3%
ペットボトル	904t	969t	10.2%
容器包装プラスチック	3,440t	3,345t	1.3%
古紙集団回収等	7,066t	5,185t	▲ 34.4%
水銀含有製品	118t	105t	▲ 7.1%
合計	16,493t	14,900t	▲ 12.5%

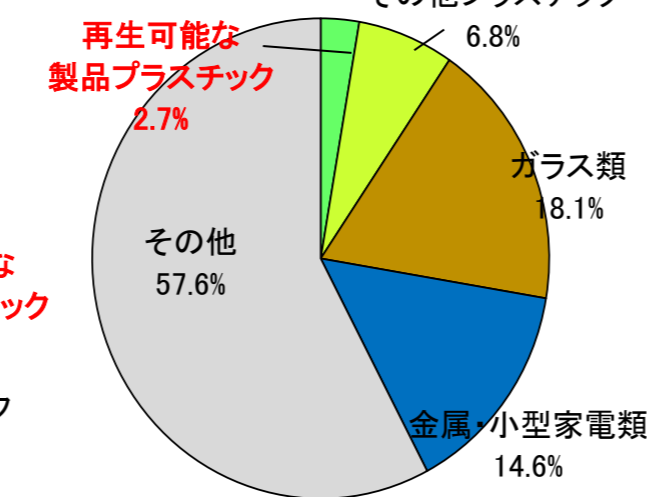
※ 計画値は第6期計画における予測値

(3)組成調査結果

(家庭系ごみ)
・燃やすごみ



・埋立ごみ



(注) 数字の単位未満を端数処理しているため、各項目の値の合計値が100%にならない場合がある。

3. 結果の分析と今後の課題

○ごみ排出量について

- ごみ総排出量については、概ね計画値どおり推移し、計画値に達したが、燃やすごみ量については、計画値に達しなかった(計画値対比+1.1%)

【燃やすごみ量】

- 事業系ごみについては、計画値に達した(計画値対比▲0.4%)が、家庭系ごみについては、計画値に達しなかった(計画値対比+2.1%)
- ただし、この結果は、コロナ禍により、家庭で過ごす時間が増えたことによる生活様式等の変化の影響と推定
- 燃やすごみ中で、再生可能な紙類が、家庭系で13.6%、事業系で17.3%を占有
- 燃やすごみ中で、手つかず食品・食べ残し(食品ロス)、調理くずが、家庭系で33.1%、事業系で40.2%を占有
- 資源化の検討を行っている再生可能な製品プラスチックは、家庭系の燃やすごみ中で1.2%を占有

→ 燃やすごみ量の削減については、引き続き、再生可能な紙類や生ごみへの取り組みが重要

→ 再生可能な製品プラスチックの資源化に向けた新たな取り組みが必要

○家庭系資源回収量について

- 資源回収全体としては、計画値に達しなかった(計画値対比▲12.5%)
- 金属類やペットボトルなどについては、計画値に達したが、古紙集団回収等については、計画値に達しなかった(計画値対比▲34.4%)

【古紙集団回収等】

- 計画値に達しなかった(計画値対比▲34.4%)
- ただし、この結果は、ペーパーレス化の影響と推定
- 組成調査から、燃やすごみ中で、再生可能な紙類が13.6%を占有

- 資源化の検討を行っている再生可能な製品プラスチックは、家庭系の燃やすごみ中で1.2%、埋立ごみ中で2.7%を占有

【製品プラスチック】

- 再生可能な製品プラスチック量は約900tと推定

→ 資源化の推進のためには、引き続き、燃やすごみ中の再生可能な紙類への取り組みが重要

→ 再生可能な製品プラスチックの資源化に向けた新たな取り組みが必要